

地理歷史·公民

地理歴史－１ （世界史A）世界の一体化の始まり・・・・・・・・・・	36
資料の読み取りやグループ討論を通して、歴史的事象を多面的・多角的かつ現在の諸事象と関連付けて考察する力を育成する事例	
地理歴史－２ （日本史B）武家政権の成立と鎌倉文化～鎌倉時代の諸産業の発達と貨幣が普及した要因を考える～・・・・・・・・・・	42
ICTを活用しながら、様々な資料を提示し、歴史的事象を多角的に考察する事例	
地理歴史－３ （日本史B）ヨーロッパ人の東アジア進出・南蛮貿易とキリスト教・・・・・・・・・・	46
一つのテーマを世界史と日本史の二つの視点から多面的に考察することで、世界とのつながりを意識して日本史を捉えさせる事例	
地理歴史－４ （地理B）中国－発展する大国に注目する・・・・・・・・・・	52
資料の分析に基づいて立てた仮説と解答の根拠をグループで共有することで、多角的に考察する力を育成する事例	
公民－１ （現代社会）地方自治・・・・・・・・・・	58
身近な生活との関わりを通して政治についての認識を深める事例	
公民－２ （現代社会）公正な社会の実現を目指して・・・・・・・・・・	64
公正・正義について、生徒間の対話を通して考察し、よりよい社会の形成や人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる事例	

資料の読み取りやグループ討論を通して、歴史的な事象を多面的・多角的かつ現在の諸事象と関連付けて考察する力を育成する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 世界の一体化の始まり			
2 単元の目標 ・大航海時代のヨーロッパとアフリカ・アメリカ・アジアとの接触が各地域に与えた影響について考察する。 ・アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、アフリカ・アメリカ社会の変容について理解する。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程とその影響について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程に関する情報を、教科書や資料集等から適切に選択・収集し、それを活用している。	16世紀から19世紀までの諸地域世界の結合と変容の過程に関する特色など、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
4 単元の概要 大航海時代は「世界の一体化」の始まりであり、現在の「グローバル社会」はその延長線上にあるとも言える。これによって世界は結びつく方向に進み、特定地域でのみ栽培されていた食料や技術等が世界全体に広がった一方で、文化の破壊や伝染病の蔓延等も生じた。本単元では、大航海時代が世界全体にもたらした影響について、個人とグループで資料の分析及び意見の構築をさせる。そして、多面的・多角的な情報・意見を踏まえて、現代との関連も意識させながら、大航海時代がもたらした影響について考察させることを目的としている。			
5 単元の指導計画（計14時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (6時間)	・ヨーロッパ人が大航海に乗りだした背景について考察する。 ・大航海が始まった15～16世紀当時、アジアには強大な帝国が数多く存在し、ヨーロッパとの差はなかったことを理解する。	・大航海時代が始まった背景について、これまでの授業内容を踏まえ、教科書や資料集を用いて調査し、グループで話し合せて考察させる。 ・大航海時代以前は、ヨーロッパが世界の中心とは言えず、現在と国際情勢が大きく異なることに気付かせる。	
第2次 (3時間)	・大航海時代が各地域に与えた影響を踏まえ、世界全体にとって大航海時代がもたらした影響は何かを考察し、自らの考えを適切に表現する。【本指導事例】	・個人で調査し持ち寄った情報を基に、各地域・世界全体にとって大航海時代が「良い出来事」か「悪い出来事」かをグループ内で考察させる。 ・他グループの発表内容も踏まえ、大航海時代がもたらした影響について、最終的に自らがどう判断したかを文章として表現させる。	
第3次 (5時間)	・大航海時代以後、世界がどのように結合・変容したかについて理解する。	・第2次で検討した内容を踏まえ、実際に大航海時代以後の世界がどのように変化したのか、現代の「グローバル化」と関連させながら理解させる。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領上の関連部分は、「世界史A」の2の内容(2)「イ 結び付く世界と近世の日本」で示されている。

大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。

本指導事例は、上記の内容に示されているように、16世紀から18世紀までの世界において、諸地域間の接触と交流及び変容を通して、世界の一体化への動きと近世の日本の対応を把握させることが目的である。

ヨーロッパ人が経済的繁栄を誇るアジア諸地域の物産を求めたことで大航海時代が始まり、各地に進出して得た物産や知識等の流入により、ヨーロッパ人の生活や文化に大きな影響を与えた。また、当時のアジアは諸帝国が黄金時代を迎えていたものの、ヨーロッパ諸国の進出により変容を余儀なくされていったほか、アフリカやアメリカにおいてもそれまでの生活・文化の変容が見られた。このように、大航海時代を経て世界は「結合」と「変容」が見られ、現代世界にもつながる課題が生じている。

以上の内容を踏まえ、本指導事例では、大航海時代前後の世界各地の状況を資料から読み取らせ、その内容を基に大航海時代が各地域・世界全体に与えた影響について、グループで討論しながら考えを深め、最終的に自らの意見を記入させることで、思考力・判断力・表現力等の育成及び「深い学び」の実現につながると考える。

【深い学びの実現に向けた工夫】

①授業構成の工夫

- ・本指導事例は、グループでの活動が重要な意味を持つため、作業中に迅速かつ適切なアドバイスができるよう、チームティーチング形式で実施した。今回はワーキンググループメンバーに協力を依頼したが、各校で実践する場合は、地歴公民科教員で連携して取り組む必要がある。【参考資料1】
- ・各問いについて、必ず個人で意見を考えさせた上で、グループで個人の意見を持ち寄り議論する形式を取り、特定の意見だけでグループ全体の意見を構築しないよう指導した。【参考資料2】
- ・最終的に自らの考えをまとめる際、個人の意見、自らのグループで出た意見、他のグループで出た意見、他のクラスで出た意見といった多角的な視点から考察することで、自分の力だけでは導き出せない考えに至るよう工夫した。【参考資料3】
- ・各班の発表後にインタビュー形式で感想を発表させたことで、発表に耳を傾ける意識を高めた。

②教材の「見える化」

- ・パワーポイントだけではなく、授業で用いる教科書や資料集、プリント等をデータ化し、それをタブレットを用いてスクリーンに示すことで、作業の効率化を図った。
- ・グループで出た意見を全体に発表する際、「まなボード」を用いたことで、どのような意見が出たのかを一目で比較できるよう工夫した。【参考資料4】

③深い学びによる効果・今後の課題

- ・歴史的事象を多面的・多角的視点から考察させることで、その事象が後世に与えた影響を考えることにつながり、生徒が歴史を学ぶ意義を実感している様子が見られた。【参考資料4】
- ・グループで個人の意見をぶつけ合って議論し、自らの力だけでは考えつかないことを導き出すことが深い学びにつながると考える。そのためには個人の意見が明確であることが前提となるため、グループ活動ありきにならないよう留意する必要があると感じた。
- ・深い学びを実現するためには、「発問の工夫」と「資料の精選」が大事だと考える。発問に関しては普段の授業からよく検討しなければならない。また、教科書や資料集以外からも様々な資料を集め、生徒に様々な視点を提供する必要があるが、生徒の実態に合うよう留意すべきである。
- ・新学習指導要領や大学入学共通テストへの対応の面からも、今後各単元で深い学びの実践例を蓄積し、それを共有することで、教員の授業づくりの一助となるのではないだろうか。

学習指導案（簡略版）

- 1 大単元名 : 世界の一体化の始まり
- 2 大単元の目標 : (1)大航海時代のヨーロッパとアフリカ・アメリカ・アジアとの接触が各地域にどのような影響を与えたか考察している。
【思考・判断・表現】
(2)アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、アフリカ・アメリカ社会の変容について理解している。【知識・理解】
- 3 本時の小単元名 : 大航海とアメリカ征服
- 4 本時の目標 : 大航海時代が世界全体に与えた影響について、自らの考えを適切に表現している。【思考・判断・表現】
- 5 指導対象学年 : 1 学年
- 6 本時の学習展開 (チームティーチングにて実施)

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点(※)	評価の観点・方法等	時間
導入	○前時の復習 ○本時の学習内容の確認	○大航海時代における世界各地への影響について、前時に班でまとめた内容を確認し、未記入の部分があれば補足する。 ○本時の学習内容及び作業について、教師の話を確認する。	T1: 各班で前時までにまとめた内容の確認を行い未記入の部分があれば補足するよう指示する。 T2: 各班の取り組み状況を机間指導する。 ※授業開始時から5人×7班の状態にする T1: 本時の学習内容及び作業について説明する。		10分
展開	○大航海時代は世界全体にとって良い出来事だったか、悪い出来事だったか。 ○個人の立場・理由を踏まえ、班としての立場・理由をまとめる。 ○班の意見がまとまったら、全体発表に向けて「まなボード」に班の立場・理由を記入する。 ○班ごとに意見を発表し、全体で他の班の意見を共有する。	○前時までの内容を踏まえ、「大航海時代は世界全体にとって良い出来事だったか、悪い出来事だったか」という発問に対する自らの立場と理由をプリントにまとめる。 ○個人としての意見形成についてのルール(多数決ではなく、できるだけ皆が納得する形で班全体の意見を形成する等)を提示する。 ○班の意見がまとまったら、全体発表に向けて「まなボード」に班の立場・理由を記入する。 ○班ごとに意見を発表し、全体で他の班の意見を共有する。	T1: 発問に対する自らの立場と理由をプリントにまとめるよう指示する。 T2: 取り組み状況に応じて、個別にヒントやアドバイスをやる。 T1: 班としての意見形成についてのルール(多数決ではなく、できるだけ皆が納得する形で班全体の意見を形成する等)を提示する。 T2: 各班の作業の様子を観察し、意見形成が難航している班に対してヒント・アドバイスを与える。 T1: 全体発表に向けて「まなボード」に班の立場・理由を簡潔に記入するよう指示する。 ※発表は1班1分程度とする。 T2: 発表班以外の生徒に対し、インタビュー形式で感想を発表させる(1班につき1~2人)。	・大航海時代が世界全体に与えた影響について、自分の考えを適切に表現している。【思考・判断・表現】 (授業プリントの点検) B: 大航海時代が世界全体にとって良い出来事だったか、悪い出来事だったかについて、特定の地域からの視点、自らの主観によってまとめることが出来ている。 A: Bに加え、世界全体という広い視野からの視点、客観的な立場から考えをまとめることが出来ている。	35分
まとめ	○最終的な自らの立場・理由の記入	○全体での発表を踏まえ、最終的な自分の考えをプリントに記入する。	T1: 他の意見を聞いた上で、最終的な自分の考えはどうなったか、プリントに記入するよう指示する。 ※授業内で書ききれなかった場合は、次時までに記入してくるよう伝える。 ※判断に迷う生徒に対しては、なぜ判断に迷うのかその理由を具体的に述べるよう指示する。		5分

7 本時の評価と手だて

大航海時代が世界全体に与えた影響について、自らの考えを適切に表現している。【思考・判断・表現】

手だて: プリントを点検し、自らの考えを適切に表現するための助言を行った上で、必要事項を改めて記入したプリントの再提出を求める。

②各地域にとって「大航海時代」は良い出来事だったか、悪い出来事だったか？

 授業プリント p43~44 でまとめたことを参考にし、各地域にとって大航海時代が良い出来事だったか、悪い出来事だったか、理由を含めて考えてみよう！

①まずは個人で考える ②班内で意見を共有し、班としての意見をまとめる

A. ポルトガル・スペイン(西欧)

①個人 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった
理由

②班 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった(※班で意見を統一すること！)
理由

B. 地中海沿岸地域(東欧)

①個人 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった
理由

②班 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった(※班で意見を統一すること！)
理由

C. 南北アメリカ大陸

①個人 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった
理由

②班 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった(※班で意見を統一すること！)
理由

D. アフリカ

①個人 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった
理由

②班 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった(※班で意見を統一すること！)
理由

E. アジア(日本を除く)

①個人 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった
理由

②班 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった(※班で意見を統一すること！)
理由

F. 日本

①個人 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった
理由

②班 … 大航海時代は (良い ・ 悪い) 出来事だった(※班で意見を統一すること！)
理由

③世界全体にとって「大航海時代」は良い出来事だったか、悪い出来事だったか？

授業プリント p43~46でまとめたことを参考にし、**世界全体**にとって大航海時代が良い出来事だったか、悪い出来事だったか、**理由**を含めて考えてみよう！

①まずは個人で考える ②班内で意見を共有し、班としての意見をまとめる

①個人 … 大航海時代は世界全体にとって (良い) ・ (悪い) 出来事だった

理由

どの地域を見ても、その地域の文化が**おまわり**の文化が優り、先住民の文化が壊されたとしても、その後の文化が今のその地域をつつこたり、結果的には**おまわり**の出来事としてまとまっているから。

②班 … 大航海時代は世界全体にとって (良い) ・ (悪い) 出来事だった

理由

当時口、文化の破壊や**奴隷制** (※班で意見を統一すること！) による人種差別があり、それから**良い**出来事としてまとめたから。

しかし、これらの出来事が**全て**後の文化に影響しており、結果として**今の世界**があるのも事実。

~MEMO~ (※他の班の意見で、印象に残った意見をメモしておこう！)

病害体の影響
近代化<奴隷等

<ヒント>

○各地域で「良い・悪い」の判断が異なる場合は、何を重視するか考えてみよう！

・「良い」と考えた地域が多ければ、世界全体にとっても「良い」出来事なのか？

・自分にとって身近な地域が「良い」であれば、世界全体にとっても「良い」出来事なのか？

⇒ 1つの視点だけではなく、様々な視点から内容できれば GOOD！

○なるべく「良い・悪い」のどちらからの立場に立って記述すること！ただし、どうしても判断に悩む場合は、なぜ判断に迷うのか、その理由を具体的に記述してみよう！

④最終的なあなたの判断は？

これまでの授業内容を振り返る、あなたは「世界全体にとって大航海時代は良い出来事だったか、悪い出来事だったか」という疑問にどう答えるか。自らの立場を明確にし、その立場をどうした理由をできるだけ具体的に述べよ。

<最終ジャッジ> … 大航海時代は世界全体にとって (良い) ・ (悪い) 出来事だった

理由

班では「悪い」としてまとめたものの、やはり**良い**出来事だった。たとえ判断したのが「今の世界」を中心としたとしても、文化の破壊や**奴隷制**、当時の人々にとって**明らか**に悪影響を与えたこと、それらが、それらを極めたこと、後の世界があるのも**事実**である。特に文化の破壊は、**格別**後から見て文化が今のこの国の文化として定着し、受け入れられている。「結果的に」という話になる。つまり、**中立的**な視点でも**良い**と見た。

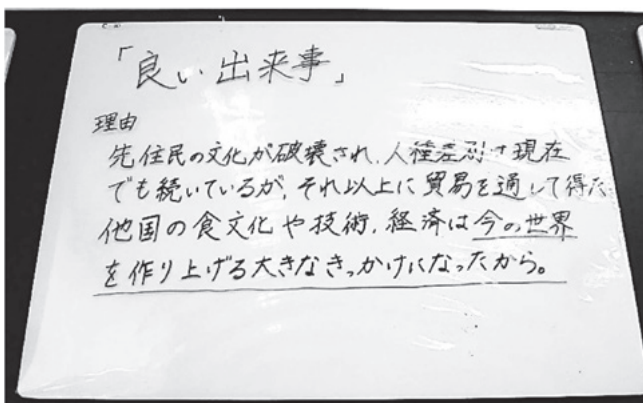
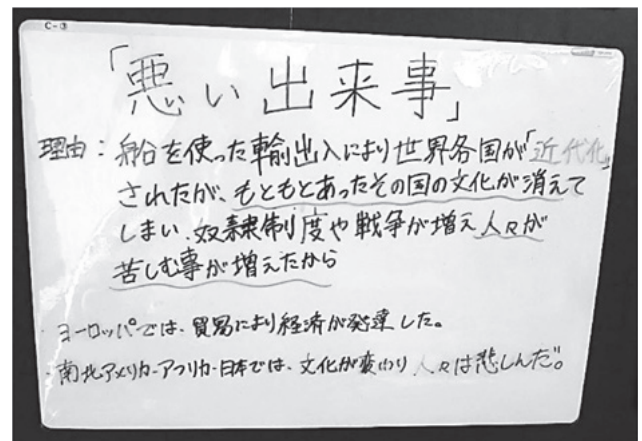
班の中でも大航海時代の直教を合現在、2つの視点が対立していたのは**すごく良い**と見ていた。

悪いと判断した班の意見で印象的なのは「近代化<奴隷制、病害体>の影

響が大きい」という点。近代化の方が大規模で文化の影響を与えられるため、月時に**今の社会問題**と比べて**残っている奴隷制**と目を向け、その結果に**至る**のは、たしかに**納得**したという考え方もあり、**納得**したと感じた。

貿易も盛んにあり、**良い**と判断したか「悪い」の判断も**非事**に納得できる。

評価基準	
A 発展的・深い学び	世界全体という広い視野からの視点や、客観的な立場から自らの考えをまとめることが出来ている。
B 表面的な学び	特定の地域からの視点や、自らの主観によって考えをまとめることが出来ている。
C	自らの考えを分かりやすくまとめることが出来ていない。



【学習活動の概要】

1 単元名 武家政権の成立と鎌倉文化

～鎌倉時代の諸産業の発達と貨幣が普及した要因を考える～

2 単元の目標

- ・鎌倉時代に貨幣経済が普及した要因を考察する。
- ・農業生産力の向上などにより鎌倉時代に諸産業が発展した状況を理解する。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
宋銭の輸入による貨幣経済の浸透と、農業生産力の発展などによる諸産業や経済流通の発展について意欲的に考察している。	鎌倉時代における農業生産力の向上の要因と、その結果、社会に与えた影響を多角的に考察し、表現している。	鎌倉時代の人々の暮らしや社会状況を示した情報を教科書や資料集などから読み取り、それらを効果的に活用している。	鎌倉時代の産業経済の発展と、貨幣が普及した要因について基本的な知識を身に付けている。

4 単元の概要

平安時代末に日宋貿易で平清盛が輸入した宋銭が、鎌倉時代に入り国内で普及した状況を理解し、農業技術や農業生産力の発展と、それに伴う諸産業の発展について様々な資料を活用しながら特色を捉える。また、一遍上人絵伝「備前国福岡市」の特徴や鎌倉時代に貨幣が普及した要因について個人で考察した上で、その後グループ活動を通じて多角的に捉える。

5 単元の指導計画(計5時間)

次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点
第1次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・平氏政権の成立と崩壊、平清盛が行った日宋貿易についてグループで調べる。 ・承久の乱後における鎌倉幕府の勢力拡大と地頭の荘園支配について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平清盛が行った日宋貿易についてグループで調べ、特徴をまとめ発表させる。その際東アジアの国際通貨として流通していた宋銭を輸入したことに気付かせる。 ・鎌倉幕府が承久の乱後勢力を拡大する中で、農民は中世を通じて地頭や荘園領主の厳しい支配を受けながら耕地開発をすすめ、農業技術や農業生産力を向上させていったことを理解させる。
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代にいたるまでの貨幣の普及の歴史や鎌倉時代における農業技術向上や農業生産力の発展、諸産業の発展、鎌倉時代に貨幣が普及した要因について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代における農業技術の向上や農業生産力の発展については貨幣普及の要因の考察の手掛かりとなるよう、様々な資料を活用しながら理解させる。 ・鎌倉時代にいたるまでの貨幣の普及の歴史や鎌倉時代に貨幣が普及した要因については、個人で考察させ、その後グループ活動を通じて意見を集約し、各グループの代表者が発表することで各々の意見の共通点や相違点に気付かせ、多角的な視点から捉えさせる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領の関連する部分は「日本史B」の2の内容（2）中世の日本と東アジア「イ 中世国家の形成」で記述されている。

武士の土地支配と公武関係、宋・元などとの関係、仏教の動向に着目して、中世国家の形成過程や社会の仕組み、文化の特色とその成立の背景について考察させる。

本事例はこの学習指導要領の内容に示された中世国家の社会の仕組みについて、東アジア（宋）との貿易を通じて流入した宋銭が、鎌倉時代において社会にどのような影響を与えたかを念頭に主題を設定した。鎌倉時代に貨幣経済が浸透した要因を貨幣の普及率（山川出版社『詳説日本史研究』より）や一遍上人絵伝「備前国福岡市」などの資料を通じて考察することで、思考力や判断力、表現力、資料を活用する技能などの力を養うことができる。また、鎌倉時代に貨幣が普及した要因を学ぶことで、室町時代における洪武通宝や永楽通宝など明銭の普及による経済発展につなげて考察することができる。

【深い学びの実現に向けた工夫】

<授業の構成・実施方法について>

①授業の構成の工夫

本時の目標の一つである「鎌倉時代に貨幣経済が普及した要因の考察」に生徒を導くため、以下のことを授業の中に組み入れた。

- ・導入部分では、「鎌倉時代にいたるまでの貨幣の普及率」について個人で考察させ、貨幣経済が普及することで金融業者が出現し、貨幣を通じて商品流通が促進されることにつなげた。
- ・展開部分では、貨幣の普及に伴う市の発展について、市の立地場所、八日市など市と地名の由来についてクイズ形式で発問し、人が集まる場所に商品も集まることに気付かせ、また一遍上人絵伝「備前国福岡市」を活用することで、どのような商品が販売されているか考察させることで、諸産業の発展に気付かせ、その背景を考察させた。

②ICTの活用

パワーポイントを活用することで、拡大して提示するなど有効に資料を活用することができた。生徒の視点が一点に集中することで、授業に臨む雰囲気に一体感が生まれるとともに、生徒がその時代のイメージを膨らませながら授業に取り組むことにつながった。また、資料集等をその都度見開く必要がないため、グループ活動の時間の確保にもつながった。

<深い学びの効果>

鎌倉時代に貨幣が普及した要因について考察する場面では、自ら考察した意見をグループ内で協議した。当初は取引を容易にするため、経済の発展を促すためなどの解答が予想されたが、生徒は学んだ知識を生かして活発に協議を行い、解答は一つだけという思い込みを覆し、生徒たちは次々と興味深い意見を発表した。自由で、柔軟な発想のもと様々な意見が出されたところに歴史の授業の魅力や面白さがあることに気付かされた。またその後の授業でも生徒みずから探究活動にさらに意欲的に取り組むようになり、このような活動を行うことより思考力や判断力、表現力が培われていることを実感した。

【鎌倉時代に貨幣が普及した要因の考察～各班の発表内容～】

- ・商品と交換する米の量が不足したから。凶作や飢饉などがあり米量が減ったのでは。
- ・交換する際、米を大量に持ち歩けないため。容易に取り引きできる手段として。
- ・商品を容易に取り引きし、経済を発展させるため。 ・米や布だといずれ腐るから。
- ・商人が現れ売買の仲立ちを行うようになり、取引をスムーズにするため。
- ・農業生産力が向上して、農業以外の職業に携わる人がでてきたから。



鎌倉時代の諸産業の発達

1 鎌倉時代の定期市と貨幣の普及

(1) 貨幣の歴史

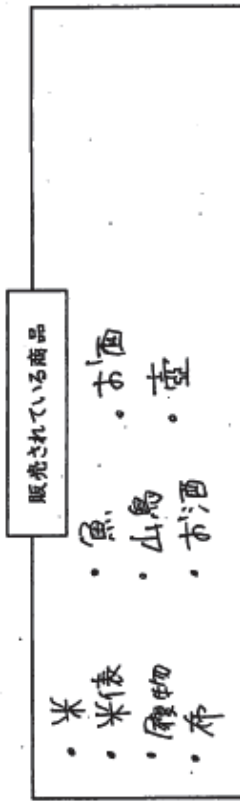
708年... 和同開珎 → 日本で最初に鑄造された貨幣。皇朝十二銭の最初。
 711年... 萬葉紋位令 → 全国に普及せず。
 958年... 乾元大宝の鑄造 → 皇朝十二銭の最後。
 皇朝十二銭... 708年に鑄造された和同開珎から958年にかけて鑄造された12種類の銅銭のこと。
 平安時代末... 平清盛 が日宋貿易で 宋銭 を輸入。

(2) 貨幣の普及率

貨幣の普及度	平型	正解
平安時代末期	米 95 % 貨幣 5 %	平安時代末期 米 60 % 貨幣 40 %
鎌倉時代初期	米 90 % 貨幣 10 %	鎌倉時代初期 米 30 % 貨幣 70 %
鎌倉時代末期	米 85 % 貨幣 15 %	鎌倉時代末期 米 15 % 貨幣 85 %

(3) 「一週上人絵伝」備前国福岡市

Q1: 備前国福岡市の様子をみて、どのような商品が売られているのか考えてみよう。



Q2: これらの販売されている商品を作ったり、揃ってきているのはどのような人々だろうか?

農民

2 鎌倉時代の農業と諸産業の発達

(1) 農業 農業技術の進歩 → 農業生産力の発展

- ① 二毛作の普及(米と麦の兼作)... 畿内、西国でひろまる → 室町時代は _____ も行われる。
- ② 鉄製農具の普及(鍬・鋤・鎌)
- ③ 牛馬糞 (牛や馬を利用して耕作)
- ④ 多収穫品種の輸入... 大倉米 ... 草を土の中で腐敗させたもの
- ⑤ 自給肥料の使用 刈草 ... 草を土の中で腐敗させたもの
- ⑥ 商品作物の栽培 紙の原料... 楮 染物の原料... 藍
- ⑦ 水車 の発明... 灌漑技術の進歩

Q3: 鎌倉時代における農業の発達は社会にどのような影響をもたらしただろうか?

・農民の生活が変化した。
 ・年貢の他に売子のための商品を生産し始めた。
 ・様々な物が生産されるようになった。

(2) 商業の発達 農業生産力の向上 → 貨幣の普及 → 商業活動の活性化

- ① 定期市の出現 定期市... 平安 時代末期より各地で行われる
 鎌倉時代...月に 3 回行われる 三條市 が一般化 室町時代 → 6 回が一般化
 ※ 行商人 ... 商品を運ぶ人々の活躍
 ※ 夏世相 ... 商品を陳列する棚の出現
- ② 宋銭 の流通 → 貨幣景況 が進展
- ③ 運送業者... 舟 の活躍
 ... 川 や 港 の要地を拠点に商品の中継ぎや委託販売・運送を行う業者
- ④ 遠隔地取引... 為替 (手形)の利用
- ⑤ 高利貸業者... 借上 の出現... お金のない人に貸し出す業者。寺社などが多い
- ⑥ 同業者組合... 座 の結成... 商品の同業者組合・商品を独占販売することによって利益をおげる。

の手工業・金銀治・織物師の活躍…織製農具の需要増大
 蚕屋の活躍…建築現場で働く職人(大工)
 ※ 農業に従事していた人々の中から、専門の手工業者があらわれる

3 今日の課題について考える

Q4:鎌倉時代に貨幣が浸透した理由について考えよう。

(1)自分の考え

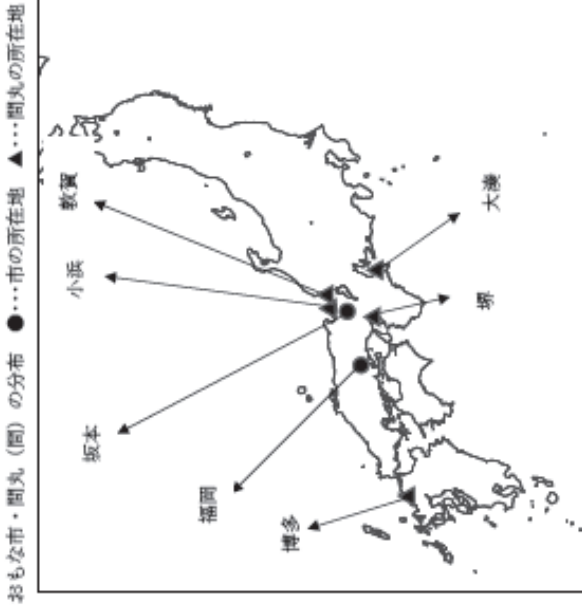
商品を簡単に取引できるようにするため。

(2)班の考え

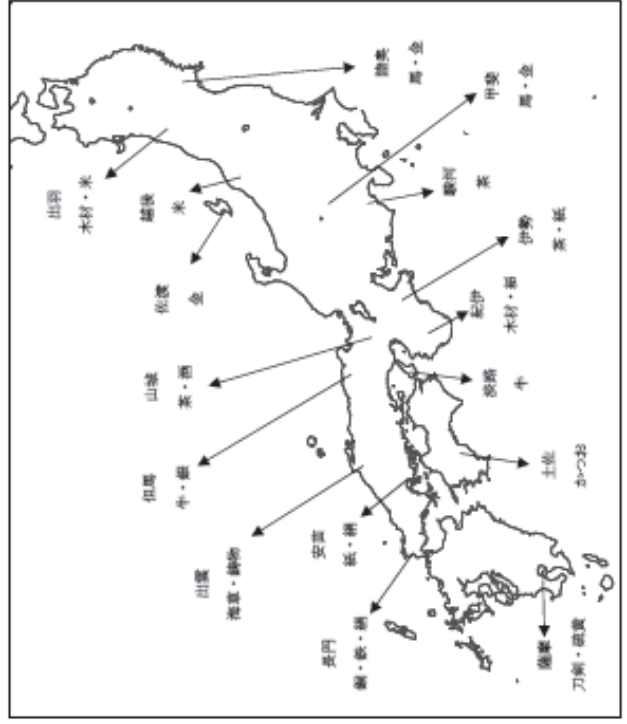
取引を簡単にすすため。

(3)クラスの考え

・商品作物が大量に生産された
 ・絹(布)や米で対価がとれなくなった
 ・商品を容易に取引できるようにするため
 ・売買の仲立ちを行う商人があらわれた。
 ・経済を良くすすため
 ・絹や米では大量に持ち歩けない
 ・農業下及代が進歩し、生産力も高まったため
 ・布や米だといすれ/筒子から
 ・商品を運ぶ人があらわれた
 ・交通の発達(船など)
 ・豊かになった
 ・生活の道具とい



中世の諸国のおもな特産物



一つのテーマを世界史と日本史の二つの視点から多面的に考察することで、世界とのつながりを意識して日本史を捉えさせる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 ヨーロッパ人の東アジア進出・南蛮貿易とキリスト教			
2 単元の目標 大航海時代における鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえて、ヨーロッパ世界との接触とその影響について考察する。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度 大航海時代におけるヨーロッパ世界との接触とその影響に対する関心を高め、意欲的に追究している。	思考・判断・表現 大航海時代におけるヨーロッパ世界との接触とその影響について、世界史と日本史の二つの視点から多面的に考察し、適切に表現している。	資料活用の技能 ヨーロッパ人が日本に來航した目的や日本の銀が果たした役割を、提示された諸資料から読み取って考察の材料としたり、文章でまとめたりしている。	知識・理解 鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開について理解し、その知識を身に付けている。
4 単元の概要 「大航海時代」というテーマのもと、鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開について理解を深める。また、様々な資料からヨーロッパ人が世界規模の商取引に利用された「銀」を入手するために日本に來航していたこと、ヨーロッパ人が東アジアで銀を媒体とした中継貿易を行っていたことを理解する。そして、これらを手掛かりとして、ヨーロッパ人の來航が日本の歴史に与えた影響について、世界史と日本史の二つの視点から考察することを通して、視点を変えることで、歴史の捉え方が異なることや、多面的に歴史を捉えることの大切さに気付かせる。			
5 単元の指導計画（計2時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 （1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開に関する知識を身に付けさせ、次時の考察につなげる。 	
第2次 （1時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人の來航が日本の歴史に与えた影響について考察する。【本指導事例】 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半のパワーポイントを使用した「銀」に関する内容については、教師側からの発問やペアワークなどを行いながら進め、生徒が理解を深められるようにする。 ・ヨーロッパ人の來航が日本の歴史に与えた影響について考察する活動については、考察の手掛かりとなるように追加で資料を配付する。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領上の関連部分は、「日本史B」の2の内容（3）近世の日本と世界「イ 近世国家の形成」で示されている。

ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、身分制度の形成や儒学の役割、文化の特色に着目して、近世国家の形成過程とその特色や社会の仕組みについて考察させる。

学習指導要領解説には、「ヨーロッパ諸国やアジア各地が相互に交流する世界の動向の中で、我が国が受けた文化的影響やその外交体制の変化について、幕藩体制の形成と関連付けて考察させる」とある。本指導事例の活動を通じて、日本が世界の一体化に組み込まれていったことだけでなく、豊臣秀吉や江戸幕府の外交政策にも影響を与えたことに気付かせ、近世国家の形成につなげることができるようにする。

【深い学びの実現に向けた工夫】

（1）授業内容・構成

- ①ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響について考察するための手掛かりとなるよう、当時の日本では大量の銀が産出されていたことや銀が世界規模の商取引に利用されていたこと、銀を媒体とした商取引が東アジアで行われていたことを、様々な資料を用いて捉えさせた。
- ②日本の歴史に与えた影響について、個人での考察の後、グループの意見を構築させた。そして、代表者に発表させ、他のグループとの共通点や相違点に気付かせ、思考を広げ、深めさせた。
- ③歴史的事象を多面的に考察する力を身に付けさせるため、日本史の視点だけでなく、世界史の視点（世界の中の日本という視点）からも考察するよう条件付けをした。
- ④生徒が考察しやすいよう、銀だけでなく、キリスト教伝来や以後の外交政策などの既習内容も考察の材料になることを伝えるとともに、世界の一体化に関する資料（『高校世界史A改訂版』、『詳説世界史B改訂版』（山川出版社））や鉄砲に関する資料（長篠合戦図屏風の一部）を配付した。
- ⑤授業の最後に、個人での活動を通して気付いたことや疑問に思ったことをワークシートに記入させることで、自分の考えをより深めることができるようにした。

（2）ICTの活用

パワーポイントを活用することで、必要な資料を拡大して提示したり、要点をまとめて提示したりすることで生徒の視線が集まり、集中力や理解度の向上につながった。また、板書をする必要がないので時間短縮になり、個人での考察やグループでの意見構築の時間の確保にもつながった。

※各班の発表内容

- ①日本史の視点
 - ・物の流通が盛んになった。　・国内での商品の流れが多様化した。
 - ・鉄砲伝来により戦いが有利になった。
- ②世界史の視点（世界の中の日本という視点）
 - ・大陸間以外の貿易も盛んになったことで、商品の流通量が増え、銀の流通が活発になった。
 - ・日本も世界の一体化に組み込まれていった。　・交流が拡大した。
 - ・世界との結び付きが広く深くなった。

（3）本指導事例の振り返り

- ・石見銀山が世界遺産に登録されていることにも触れるなど、本指導事例の内容と現在とのつながりを意識させることで、より深い学びにつなげることができるのではないかと。
- ・ヨーロッパ人の来航による良い影響だけでなく、悪い影響についても考察できるような工夫があれば、より多角的な視点からの考察ができたのではないかと。
- ・銀を媒体とした商取引やキリスト教の伝来により、日本が「世界の一体化」に組み込まれていったことに気付かせたかったが、その意見が出たのは少数だった。しかし、「貿易により流通が活発になった」「生活が豊かになった」という、教師側が予想していなかった意見も見られ、多角的な視点から考察できている生徒もいた。

学習指導案（簡略版）

- 1 大単元名 幕藩体制の確立
- 2 大単元の目標 ヨーロッパ世界との接触やアジア各地との関係、織豊政権と幕藩体制下の政治・経済基盤、鎖国政策、身分制度の形成に着目して、近世国家の形成過程とその特色について考察する。
- 3 本時の小単元名 ヨーロッパ人の東アジア進出、南蛮貿易とキリスト教
- 4 本時の目標 ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響について考察し、適切に表現している。【思考・判断・表現】
- 5 指導対象学年 3学年
- 6 本時の学習展開

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導入	○前時の復習 ○学習テーマの把握	・発問に答え、前時の学習内容を確認する。 ・本時の学習の見通しを立てる。	・大航海時代と鉄砲・キリスト教の伝来、宣教師の活動など、前時の学習内容について発問する。 ・本時の学習テーマを示す。		7分
展開	1 ヨーロッパ人が日本に来航した理由 (1) 日本来航の目的 (<u>ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か</u>) (2) 銀が欲しかった理由 (<u>なぜヨーロッパ人は銀が欲しかったのか</u>) (3) 銀を利用した中継貿易 (<u>ヨーロッパ人は東アジアでどのような活動を行ったのか</u>) 2 ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響	・資料やパワーポイントで示した写真等を見て発問に答え、ワークシートに語句を記入する。 ・資料を読み、問いについてワークシートにまとめる。 ・ペアで意見交換をする。 ・資料を見てワークシートに語句を記入する。 ・記入した語句をペアで確認する。 ・説明や配付された資料をもとに、問いについて考察し、自分の意見をワークシートに記入する。 ・グループの意見を構築し、ワークシートに記入する。 ・グループの意見をまなボードに記入する。	・ティセラの「日本図」など各資料から、ヨーロッパ人が「銀」を目的としていたことを理解させ、ワークシートに語句を記入するよう指示する。 ・資料を読み、問いについてワークシートにまとめるよう指示する。 ・ペアで意見交換するよう指示する。 ・資料を見てワークシートに語句を記入するよう指示する。 ・記入した語句をペアで確認するよう指示する。 ・ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響について考察し、ワークシートに記入するよう指示する。その際、考察のヒントとして資料を配付する。 ※世界史の視点、日本史の視点を考察の条件とする。 ・グループ内で意見を発表し合い、グループの意見を構築するよう指示する。 ・グループの意見をまなボードに記入し、黒板に掲示するよう指示する。	ヨーロッパ人の来航が、日本の歴史に与えた影響について考察し、適切に表現している。 【思考・判断・表現】 (ワークシートの点検) B：本時の学習内容や既習内容を基に、世界史と日本史の両方の視点から考察し、自分の意見を構築している。 A：上記Bに加え、日本史の視点において多面的に（2つ以上）考察し、自分の意見を構築している。	35分
まとめ	○各グループの発表 ○まとめ	・代表者が発表する。 ・説明を聞く。 ・ワークシートに記入する。	・代表者にグループの意見を発表させる。 ・本時の学習内容を再確認し、今後学習する江戸幕府の外交政策にもつながることを説明する。 ・本時を振り返り、ワークシートに記入するよう指示する。		8分

7 本時の評価と手だて

ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響について考察し、適切に表現しているか。

手だて：ワークシートへの記入がうまくできていない生徒に対しては、どのように考えるべきか助言を行う。

ワークシートを点検し、考察のための助言等を記入して再提出を求める。

日本史B 学習プリント

年 組 番 氏名

<ヨーロッパ人の東アジア進出/南蛮貿易とキリスト教>②

【テーマ】ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響について考えよう

1 ヨーロッパ人が日本に来航した理由

(1) ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

Hivami
= (1))
Argenti fodina
= (2))



ヨーロッパ人は (3)) を手に入れるために日本に来ていた！

宣教師ティセラの『日本図』
(中国地方を拡大)

資料1 ポルトガル人宣教師ティセラの『日本図』(1595)

(2) なぜヨーロッパ人は (4)) が欲しかったのか？

資料2

江戸時代の大判小判やヨーロッパの金貨のイメージから、一般には通貨といえは金という印象があるかもしれない。しかし、古来ユーラシアで国際通貨として通用してきたのは、銀であった。貴金属である銀は銅銭と違い額面が大きいので、高額取り引きや貿易の決済に広く用いられ、ユーラシア東方では、おもに重さによって価値が決められて通用した。銀の使用が大きく広まったのは、モンゴル時代であった。早い段階で東西交易路をにぎったモンゴル帝国は商業を振興して銀の使用をおし進め、政府が基準とした2kg単位の銀塊が、世界基準として通用した。
『新詳世界史B』帝国書院

○資料2を参考にして(2)の問いについてまとめよう。

(3) ヨーロッパ人は東アジアでどのような活動を行ったのか？

資料3

スペイン・ポルトガルの東アジア内貿易

(16世紀後半～17世紀前半)

○資料3を参考にして、下の文の()に当てはまる語句を記入しよう。

スペイン・ポルトガルによる、
銀を媒体とした中継貿易を示した図

ポルトガルやスペイン、中国の商人は、マカオやマニラを拠点として、鉄砲や中国(明)産の(5))、(6))を日本に持ち込み、南米や日本の(7))を中国(明)に運ぶ(8))を行った。

2 ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響

○ヨーロッパ人が来航したことにより、日本の歴史にどのような影響を及ぼしたかを考え、自分の意見をまとめてみよう。

考察のための条件

- ◆世界史の視点・・・この時代は大航海時代 → 世界の一体化が開始
- ◆日本史の視点・・・江戸時代を含む、日本国内の外交政策への影響
- ※本時の学習内容＋既習内容(キリスト教・鉄砲伝来など)も考察の材料！

世界史

日本史

○グループとしての意見をまとめよう。

世界史

日本史

第6章 幕藩体制の確立

1 織豊政権

ヨーロッパ人の東アジア進出

南蛮貿易とキリスト教

本時の学習テーマ

1 ヨーロッパ人が日本に来航した理由

…(1)~(3)の問いに答えながら探っていきこう

2 ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響

…これまで学習してきたことや1で分かったことを基に考察してみよう

1 ヨーロッパ人が日本に来航した理由

ヨーロッパ人がキリスト教や鉄砲を伝えたが、その後ヨーロッパ人は日本に来航していた。

では、なぜ日本に来航し続けたのか？
日本にどんな魅力があったのか？
その理由について考えてみよう。

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

宣教師ティセラの『日本図』

ポルトガル人宣教師ティセラの『日本図』 (1585)

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

『石見銀山絵巻』
(坑道内の様子)

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

宣教師ティセラの『日本図』
(中国地方を拡大)

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

石見銀山坑道入口
(龍源寺間歩入口)

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

石見銀山の坑道内部
の写真

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

Hivami
= (1) 石見)
Argenti fodina
= (2) 銀鉱山)
宣教師ティセラの『日本図』
(中国地方を拡大)

ポルトガル人宣教師ティセラの『日本図』 (1585)

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

フランシスコ=ザビエル

スペイン人はこの(日本の)島を“銀の島”とよんでいます。…日本の島のほかには銀がある島はまだ発見されていません。

『聖フランシスコ・ザビエル全書簡4』

フランシスコ・ザビエルの肖像

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

鉛と銀の合金、灰吹銀、純銀を比較した写真

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

Hivami
= (1) 石見)

Argenti fodina
= (2) 銀鉱山)

宣教師ティセラの『日本図』
(中国地方を拡大)

ポルトガル人宣教師ティセラの『日本図』 (1609)

ヨーロッパ人は(銀)を手に入れるために日本に来ていた！



(3)ヨーロッパ人は東アジアでどのような活動を行ったのか？

ポルトガルやスペイン、中国の商人は、マカオやマニラを拠点として、鉄砲や中国(明)産の(6)生糸)、(6)絹織物)を日本に持ち込み、南米や日本の(7)銀)を中国(明)に運ぶ(8)中継貿易)を行った。

(1)ヨーロッパ人が日本から入手したかったものは何か？

<補足>

○16世紀には、灰吹法(※)により日本の銀の産出量が増加し、日本は世界の銀の3分の1(年間約200t)を産出するほどであった。

『図説 日本史通覧』帝国書院

※灰吹法とは、

銀と鉛の合金から鉛を酸化除去して貴金属を取り出す製錬法。銀と鉛の合金を灰の上で熱すると酸化鉛が分離して灰に吸収され、銀を取り出すことができる。

(3)ヨーロッパ人は東アジアでどのような活動を行ったのか？

スペイン・ポルトガルによる、銀を媒体とした中継貿易を示した図

スペイン・ポルトガルの東アジア内貿易 (16世紀後半～17世紀前半)

2 ヨーロッパ人の来航が日本の歴史に与えた影響

<考察のための条件>

◆世界史の視点

この時代は大航海時代→世界の一体化が開始

◆日本史の視点

江戸時代を含む、日本国内の外交政策への影響

※本時の学習内容+既習内容(キリスト教・鉄砲伝来など)も考察の材料！

資料の分析に基づいて立てた仮説と解答の根拠をグループで共有することで、多角的に考察する力を育成する事例

【学習活動の概要】

1 単元名 中国－発展する大国に注目する			
2 単元の目標 (1) 中国の急成長の要因に興味を持つ。 (2) 複数の資料を用いて多角的に考察する。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度 中国の急成長の要因を、地形、気候、農業、工業や貿易内容と関連付けながら捉えようとしている。	思考・判断・表現 中国の急成長の要因を、地形、気候、農業、工業や貿易内容と関連付けながら多角的に考察し、仮説や根拠を適切に表現している。	資料活用の技能 資料から情報を適切に収集し、複数の資料を関連させて分析している。	知識・理解 地形や気候、産業といった既習事項を正しく理解している。
4 単元の概要 三角グラフの読み取りで中国の産業構造についての仮説を立て、その仮説の検証手段として、①先進国及びBRICsのGDPの読み取り、②BRICsのGDPと輸出との関係性の考察、③農産物の生産量の読み取りの3つの資料の分析をグループで行う。①～③の資料分析で立てた仮説をそれぞれ発表して、資料の読み取り方や考え方を全体で共有しながら、中国の産業構造を理解するとともに、中国の急成長の要因を考察し、単元の導入とする。			
5 単元の指導計画（全5時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の産業構造を、他国との比較や、農業、貿易構造、経済指標といった複数の資料の分析、考察を通して理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・①～③の資料を分析していく中で段階的に気付きがあるように資料を作成する。 ・資料の分析には様々なアプローチの方法があるため、多くのグループに発表させることで、多様な考察方法があることに気付かせる。 ・正解したグループのみの発表だけでなく、誤った時のプロセスも共有することで、気付きがあることにも留意させる。 	
第2次 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の地形、気候、農業、資源、工業、民族、諸課題について、それぞれ個別に考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に学習しながらも、地形、気候と農業、地形と資源、資源と工業といったように、各分野と関連付けながら考察、発表できるように発問を工夫し、1つの質問に対して、複数の生徒に発表させて多様な考え方があることに気付かせる。 	
第3次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の急成長の要因を、これまでの学習内容を踏まえて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの分野が中国の成長の要因となっていることに気付かせるために、個別の要素で構成されたものや、複数の要素で構成されたもの、写真や実物教材といったように有効な資料を作成、提示しながら考察させる。 ・中国の抱える課題や日本との関係についても考察させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領「地理B」の2の内容(3)「イ 現代世界の諸地域」では、

現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身に付けさせる。

こととしている。

ここでの内容の取り扱いには、(ア)「内容の(1)及び(2)の学習成果を活用するよう工夫すること」(ウ)「取り上げた地域の多様な事象を項目ごとに整理して考察する地誌、取り上げた地域の特色ある事象と他の事象を有機的に関連付けて考察する地誌、対照的又は類似的な性格の二つの地域を比較して考察する地誌の考察方法を学習できるよう工夫すること」と示されている。これに関連して、「地図や各種の統計、年鑑、白書、画像、その他の資料から地理的事象を的確に読み取り、地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの学習活動を充実させる必要がある。」としている。

この事例においては、内容(2)現代世界の系統地理的考察で学習した、自然環境や資源、産業を活用して中国の成長の要因を考察させるように授業を構成している。複数の事象と地域を入れた3つの資料を段階的に分析、考察し、言語活動を通じてそのプロセスを共有することで、各事象を有機的に関連付けて多角的に考察し、理解を深めることに有効であると考えられる。

【深い学びの実現に向けた工夫】

① 普段の取り組み

統計や資料の分析においては、ペアワークやグループ学習により、仮説を立て、根拠を含めて発表することを授業で多く取り入れている。具体例として、ラテンアメリカの人種構成を学ぶ授業では、各班をヨーロッパに暮らす家族と仮定し、地形、気候、農業、資源などの複数の資料を分析しながら、ラテンアメリカに移住するなどの国にするかを話し合い、合意形成するという活動を行った。また、漁業形態の推移を学ぶ授業では、グループでの話し合いの中で、地理の知識だけでなく、他教科の知識や身近な事例と関連付けて考察、発表する姿が見られ、普段からの取組が、深い学びを実現する素地となっていたことが、本授業がスムーズに進行することができた一因であると考えられる。

② 効果的な資料の作成

本授業で使用した資料は、統計や年鑑を用いて作成し、取り上げた地域も類似的地域としてBRICsのデータを、対照的地域として、日本、アメリカのデータを使用し、比較、分析することで、中国の産業構造を正しく理解、考察できるように留意した。また、複数の事象と地域を入れた3つの資料を段階的、総合的に分析、考察するとともに、複数の事象を項目ごとに整理し、既習事項や他教科、日常生活と関連付けて考察することで、深い学びになるように構成した。【参考資料1】

③ 得られた効果、「深い学び」が実現した場面

個人での分析では気付かなかった視点や考え方に、グループ学習を通して気付き、理解につながれた点は、学びとして大きな効果があったものと考えられる。また、グループ学習においても、複数の資料を関連させて分析したことで、理解につながれた点も効果があったものと考えられる。

1つの資料分析に対して、複数のグループに発表させることで、自分たちでは気付かなかった考えや視点、アプローチの仕方を知ることができていたこと、加えてこれまで学んだ知識を活用して分析できていたことが、生徒の発言及びワークシートからうかがうことができた。【参考資料2】

全体的に活発に自分の考えを発言していたが、グループでの分析、考察であったため、中心となって意見を出す生徒と聞く側に終始する生徒がどうしても出ていた。本授業の後から、資料分析を個人で行った後で、近くのと共有するように指示をすると、すぐに2～3名で話し合いを始め、本授業では発言を控えていた生徒も、現在は活発に自分の考えを述べるようになっており、本授業をきっかけに、より主体的に学ぼうとする生徒が増えていることを実感している。

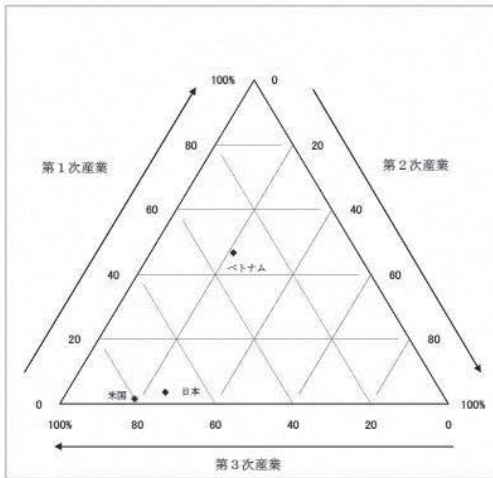
【参考資料1】

地理B授業プリント

3年 組 番 氏名 _____

作業

下の図は、先進国（アメリカ、日本）及び発展途上国（ベトナム）の産業構造について示したものである。これらの国の産業構造も参考に、中国の産業構造を予測し、該当するおおよその箇所に記してみよう。



統計年次は、アメリカ、日本が2015年、ベトナムが2014年。
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド2017』により作成。

国名	第1次産業	第2次産業	第3次産業
アメリカ	1.6%	18.4%	79.9%
日本	3.6%	24.6%	70.3%
ベトナム	46.7%	21.3%	31.9%

問2. 下の表は、GDP（国内総生産）、輸出額、主な輸出品を示したもので、①～④は、近年成長が著しいBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）のいずれかである。ブラジルに該当するものを①～④から1つ選べ。

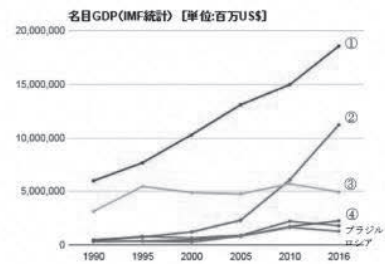
	GDP（億ドル）	輸出額（億ドル）	主な輸出品
①	22,563	2,640	石油製品、機械類、ダイヤモンド
②	112,182	20,981	機械類、衣類、繊維品、金属製品
③	12,807	2,818	原油、石油製品、天然ガス
④	17,986	1,852	大豆、機械類、鉄鉱石、肉類

統計年次は2016年。出典：UNCTAD
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド2017』より作成。

解答
① ()
② ()
③ ()
④ ()

解答の根拠、仮説を記入（どの項目のどの数値を根拠にしたか）

問1. 下のグラフは、アメリカ、日本と近年成長著しいBRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）のGDP（国内総生産）の推移を示したものであり、①～④は、アメリカ、日本、中国、インドのいずれかである。日本に該当するものを①～④から1つ選べ。



IMF統計より作成

解答
① ()
② ()
③ ()
④ ()

解答の根拠、仮説を記入（どの項目のどの数値を根拠にしたか）

問3. 下の表は、米、小麦、とうもろこし、コーヒーそれぞれの生産量を示したものであり、①～④は、ブラジル、中国、インド、アメリカのいずれかである。インドに該当するものを①～④のうちから1つ選べ。

		①	②	③	④
米	生産量	1,003	20,651	1,218	15,720
小麦	生産量	5,540	12,621	626	9,448
とうもろこし	生産量	36,109	21,565	7,988	2,367
コーヒー豆	生産量	0.36	12	2,965	318

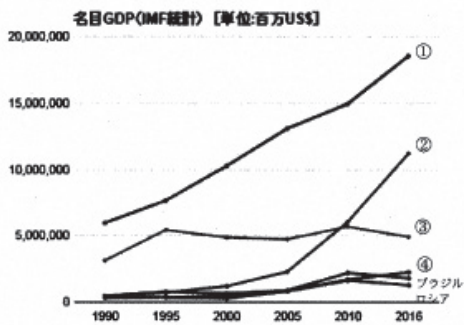
統計年次は、とうもろこしが2014年、米、小麦、コーヒー豆が2013年。
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド2017』より作成。

解答
① ()
② ()
③ ()
④ ()

解答の根拠、仮説を記入（どの項目のどの数値を根拠にしたか）

【参考資料2】

ワークシート①



IMF統計より作成

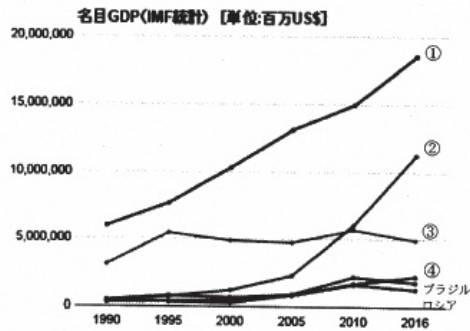
解答

- ① (アメリカ)
- ② (中国)
- ③ (日本)
- ④ (インド)

解答の根拠、仮説を記入(どの項目のどの数値を根拠にしたか)

- ② は急激化から中国
- ① がこれに倍だからアメリカ
- ③ ④ はこれに倍だから高くなる日本

ワークシート②



IMF統計より作成

解答

- ① (アメリカ)
- ② (中国)
- ③ (日本)
- ④ (インド)

解答の根拠、仮説を記入(どの項目のどの数値を根拠にしたか)

- ① 折れ違う
- ② 急上昇している
- ③ 2倍 降下している
- ④ 消滅法

ワークシート①と②のグループの解答は同じであるが、それぞれの解答の根拠が異なることから、解答に至るプロセスやアプローチの方法が多様であることが分かる。

ワークシート③

	GDP (億ドル)	輸出額 (億ドル)	主な輸出品
①	22,563	2,640	石油製品、機械類、ダイヤモンド
②	112,182	20,981	機械類、衣類、繊維品、金属製品
③	12,807	2,818	原油、石油製品、天然ガス
④	17,986	1,852	大豆、機械類、鉄鉱石、肉類

統計年次は2016年。出典：UNCTAD

二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド2017』より作成。

解答

- ① (インド)
- ② (中国)
- ③ (ロシア)
- ④ (ブラジル)

解答の根拠、仮説を記入(どの項目のどの数値を根拠にしたか)

- ② GDPが倍から中国
- ④ GDPと鉄鉱石からブラジル
- ③ 原油と天然ガスからロシア
- ① ④より①イテ + ①

ワークシート④

	GDP (億ドル)	輸出額 (億ドル)	主な輸出品
①	22,563	2,640	石油製品、機械類、ダイヤモンド
②	112,182	20,981	機械類、衣類、繊維品、金属製品
③	12,807	2,818	原油、石油製品、天然ガス
④	17,986	1,852	大豆、機械類、鉄鉱石、肉類

統計年次は2016年。出典：UNCTAD

二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド2017』より作成。

解答

- ① (インド)
- ② (中国)
- ③ (ロシア)
- ④ (ブラジル)

解答の根拠、仮説を記入(どの項目のどの数値を根拠にしたか)

- ① 問1のグラフから
- ② GDP. 輸出額. 機械類. 衣類.
- ③ 石油. 天然ガス.
- ④ 大豆. 鉄鉱石.

ワークシート③と④のグループの解答も同じであるが、①、②と同様に解答に至るプロセスが異なることが解答の根拠からうかがい知ることができる。また、④のグループは、問1の資料を用いていることも分かり、複数の資料を関連付けて考察していることが分かる。

ワークシート⑤

	GDP (億ドル)	輸出額 (億ドル)	主な輸出品
①	22,563	2,640	石油製品、機械類、ダイヤモンド
②	112,182	20,981	機械類、衣類、繊維品、金属製品
③	12,807	2,818	原油、石油製品、天然ガス
④	17,986	1,852	大豆、機械類、鉄鉱石、肉類

統計年次は2016年。出典：UNCTAD
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』より作成。

- 解答
① (インド)
② (中国)
③ (ロシア)
④ (ブラジル)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)
問1より ブラジルとロシアは GDP が 1 桁 しかないから
③ ロシア、④ ブラジル
"made in China" から 衣類 を 単抽出 している と 考え
② 中国

ワークシート⑥

	GDP (億ドル)	輸出額 (億ドル)	主な輸出品
①	22,563	2,640	石油製品、機械類、ダイヤモンド
②	112,182	20,981	機械類、衣類、繊維品、金属製品
③	12,807	2,818	原油、石油製品、天然ガス
④	17,986	1,852	大豆、機械類、鉄鉱石、肉類

統計年次は2016年。出典：UNCTAD
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』より作成。

- 解答
① (インド)
② (中国)
③ (ロシア)
④ (ブラジル)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)
問1より 1桁 しかないから GDP の 値 を 根拠 に 決定

ワークシート⑦

	GDP (億ドル)	輸出額 (億ドル)	主な輸出品
①	22,563	2,640	石油製品、機械類、ダイヤモンド
②	112,182	20,981	機械類、衣類、繊維品、金属製品
③	12,807	2,818	原油、石油製品、天然ガス
④	17,986	1,852	大豆、機械類、鉄鉱石、肉類

統計年次は2016年。出典：UNCTAD
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』より作成。

- 解答
① (インド)
② (中国)
③ (ロシア)
④ (ブラジル)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)
①
② GDP ①、④
③ 天然ガスがある → ロシア
④ イタビラ、カラジャス 地域 で 産出、農作物もあり → アグリアンテーション農業



グループで資料を分析、協議する様子



分析、協議した仮説と根拠を発表する様子

ワークシート⑤～⑦の解答も③、④と同じであるが、⑤のグループは、問1の資料を活用するだけでなく、日常生活の情報を活用していることが分かる。一方、⑥のグループは1つの事象 (GDP) のみに着目し、問1の資料を根拠として解答に至っている。⑦のグループは、既習事項の活用も見られる。それぞれのグループでアプローチの方法が異なり、これを発表することで、多様な考え方があつてをクラス全体で共有することができている。

ワークシート⑧

		①	②	③	④
米	生産量	1,003	20,651	1,218	15,720
小麦	生産量	5,540	12,621	626	9,448
とうもろこし	生産量	36,109	21,565	7,988	2,367
コーヒー豆	生産量	0.36	12	2,965	318

統計年次は、とうもろこしが2014年、米、小麦、コーヒー豆が2013年。
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』により作成。

解答

- ① (アメリカ)
- ② (中国)
- ③ (ブラジル)
- ④ (インド)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)

① とうもろこし(多) ... メキシコの隣国
 ② 米の生産量(多) (現在1位、2位91)
 ③ コーヒー豆 ... ブラジル高原
 ④ 米の生産量表中では2位 → 人口多く、米の生産量(多)

ワークシート⑨

		①	②	③	④
米	生産量	1,003	20,651	1,218	15,720
小麦	生産量	5,540	12,621	626	9,448
とうもろこし	生産量	36,109	21,565	7,988	2,367
コーヒー豆	生産量	0.36	12	2,965	318

統計年次は、とうもろこしが2014年、米、小麦、コーヒー豆が2013年。
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』により作成。

解答

- ① (アメリカ)
- ② (中国)
- ③ (ブラジル)
- ④ (インド)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)

- ① とうもろこしの生産量が1番多
- ② 米の生産量が1番多
- ③ コーヒー豆の生産量が1番多
- ④ 消去法

ワークシート⑩

		①	②	③	④
米	生産量	1,003	20,651	1,218	15,720
小麦	生産量	5,540	12,621	626	9,448
とうもろこし	生産量	36,109	21,565	7,988	2,367
コーヒー豆	生産量	0.36	12	2,965	318

統計年次は、とうもろこしが2014年、米、小麦、コーヒー豆が2013年。
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』により作成。

解答

- ① (アメリカ)
- ② (中国)
- ③ (ブラジル)
- ④ (インド)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)

① とうもろこしが多 → 人口多
 ② 米の生産量が多 → 面積多
 ③ 全体の収穫量が多 → 国土面積多、人口多
 ④ 消去法

ワークシート⑪

ものを①~④のうちから1つ選べ。

		①	②	③	④
米	生産量	1,003	20,651	1,218	15,720
小麦	生産量	5,540	12,621	626	9,448
とうもろこし	生産量	36,109	21,565	7,988	2,367
コーヒー豆	生産量	0.36	12	2,965	318

統計年次は、とうもろこしが2014年、米、小麦、コーヒー豆が2013年。
二宮書店『データブック オブ・ザ・ワールド 2017』により作成。

解答

- ① (アメリカ)
- ② (中国)
- ③ (ブラジル)
- ④ (インド)

解答の根拠、仮説を記入 (どの項目のどの数値を根拠にしたか)

②、④ 米の生産量 → 中国、インド
 ③の方が全体の収穫量 → 中国 (面積多)
 ① とうもろこしが多 → アメリカ、バイオエタノール、コーンブレット
 ⑤ コーヒー → ブラジル高原、デロンジョーコーヒー

いずれのグループの解答も同じであるが、このシートからは、既習事項が活用されていることが分かり、メモリーツリーが形成されている様子がうかがえる。単なる暗記のアウトプットによる解答で終わることなく、地形や土壌、気候、国土面積や人口といった、農業に関わる背景を踏まえて多角的に考察できていることが分かる。

これらのシートから、単なる暗記事項のアウトプットや、解答のテクニックといった、受験に必要とされる知識だけに終わることなく、様々な知識や情報を活用し、複数の資料を関連させて多角的に考察する力や多面的にアプローチする力が身に付いていることが分かる。複数の事象を、既習事項や他教科、日常生活と関連付けて考察する力を育成するうえで、本事例は効果がある。

【学習活動の概要】

1 単元名 地方自治			
2 単元の目標 望ましい政治や政治参加の在り方について考察するとともに、地方自治の意義や役割について理解する。また、地方自治や選挙に関する諸資料を活用し、その特徴について分析し、考察する。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
政治参加や地方自治に関する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主社会における人間としての在り方生き方を考察している。	政治参加や地方自治に関する課題を見出し、多角的に考察しつつ、様々な考えを踏まえて公正に判断し、適切に表現している。	望ましい政治や政治参加、地方自治の在り方について理解するための諸資料を様々なメディアから適切に選択・収集し、活用している。	地方自治の役割や選挙のしくみなどについて理解し、その知識を身に付けている。
4 単元の概要 地域の現状についてまとめた資料を活用し、グループワークを通じて、地域の魅力や課題を捉える。また、地域の現状を踏まえながら、地域の課題解決に向けた政策と地域のキャッチフレーズを考えることで、地域への関わり方や社会を形成する公民としての意識を育む。			
5 単元の指導計画（全5時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治の意義や役割、地方自治の新しい動きを理解する。 地域の現状を捉え、これからの地域の在り方について多面的に考察する。【本指導事例】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が生活する地域の魅力を考えさせる。その際、生徒の実生活や生徒自身が生活する地域の現状などを踏まえて考えさせる。 地域を良くしたいという意識を持たせ、資料を基に[行政]・[産業]・[教育・社会保障]におけるそれぞれの課題をグループワークで考えさせる。また、どのようなアプローチがあるかを多角的に考察させる。 	
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 政党の役割を知り、選挙制度のしくみや課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた政策と地域のキャッチフレーズを考え演説させることで、他のグループとの共通点や相違点に気付かせ、それらを踏まえ改めて、より良い地域の将来像についての考えを深めさせる。 	
第3次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> マスメディアと世論の関わりを理解し、民主政治に与える影響について考察する。 		

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領上の関連部分は、「現代社会」の2の内容(2)「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」で示されている。

基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。

本指導事例において、地方自治の意義や役割、地方自治の新しい動きなどの学習を通し、生徒自身が生活する地域の地方自治の現状に着目し、身近な生活に関わる事例を通して、これからの地方自治を考察させることで政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせることにつながると考えられる。また、様々な利害が複雑に混在するこれからの社会で生きていく上で、社会の課題を「知り、考え、意見を持ち、対話して、決定する」という合意形成のプロセスを身に付けさせたいと考える。

【深い学びの実現に向けた工夫】

(1) 工夫とねらい

- ・ Reflection (振り返り) シートを用いて、前時の復習をペアワークで行う。
→別紙<Reflection シートの一例>参照
- ・ 授業ワークシートで政治参加の意義を説明した。
→本時の目標を伝えることで本時では何に取り組むのかを理解させる。【参考資料1】
- ・ 地域の現状についてまとめた資料を自治体のホームページや要覧を基に作成した。
→項目を〔行政〕・〔産業〕・〔教育・社会保障〕に絞り、各項目の内容を整理することで、生徒が地域の現状を捉えやすいようにした。【参考資料2】
- ・ グループワークで〔行政〕・〔産業〕・〔教育・社会保障〕におけるそれぞれの課題を考えさせ、課題解決の優先順位をつける。
→地域を良くするために何が必要かを考えさせる。また、そのために本当に必要なことを判断する力を高める。
- ・ 課題解決のための政策と地域のキャッチフレーズを考え、演説する。
→当事者意識と地域への関わり方や社会を形成する公民としての意識を持たせることで、地域のより良い将来像について、改めて考えを深めさせる。



(2) 本指導事例の振り返り

- ・ 生徒からは「地域について考えるきっかけとなった」、「人によって地域の見え方が違うことが分かった」などの感想があり、多様な意見の中で対話し、意思決定している姿が見られた。
- ・ 深い学びを展開する際は、内容の精選を図り、計画の範囲内でじっくり生徒と関わる必要があると感じた。資料ではデータの推移のグラフなど視覚的に考察・判断ができるような資料提示の工夫が必要であった。また、課題解決の優先順位1位に〔行政〕があがらなかったのも、課題を各班に割り振るなどの工夫が必要であった。
- ・ 生徒は地域のことを概ね理解できていた。将来的に地元で就職する生徒が大半なので、地域についてより理解を深めさせ、地域の未来を創造できる人材を育成するために、地域と密接につながり、住民としての自覚をより一層育む指導が必要である。
- ・ 本時は地域に目を向け課題を考えたが、今度はそれを基に国政における課題についても「知り、考え、意見を持ち、対話して、決定する」という合意形成のプロセスを実践し、政治参加への意識を高めることにつなげたい。

1年 組 番 _____

1 地方自治～主権者教育からの魅力ある村づくり～

主権者教育—今と未来の社会をつくるために意志決定を通じて政治参画することを目指し、様々な利害が複雑に混在する社会の課題について多くの合意を形成し、君たちが「知り、考え、意見をもち、対話して、決定する」プロセスを学んでいくこと

1 六ヶ所村のいいところは？

- ・
- ・
- ・

2 六ヶ所村の課題とは？

資料「六ヶ所村の今」のそれぞれの分野の課題について考え、簡潔にまとめよう。

〔行政〕

〔産業〕

〔教育・社会保障〕

3 課題解決の優先順位は？

課題解決の優先順位を決定し、課題を記入しよう。また、順位付けの理由についてまとめよう。

1位 [_____] 2位 [_____] 3位 [_____]

なぜなら…

だからです！！

4 六ヶ所村の課題を解決するには？

優先順位別の課題を解決するための政策について考え、その理由について簡潔にまとめよう。

六ヶ所村の _____	を解決するには…
なぜなら…	という政策が必要です！！
	だからです！！

5 我が村、キャッチフレーズ大賞

掲げた政策から村民の心をガッチリ掴むキャッチフレーズを考えよう。

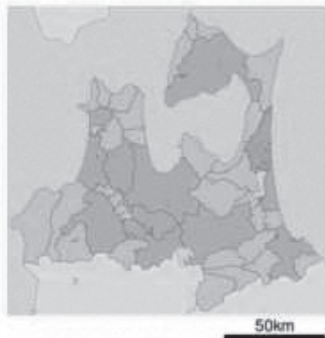
_____ **の村、六ヶ所！！**

6 魅力ある村づくりのための演説

キャッチフレーズ、政策を用いて魅力ある村づくりについて発表しよう。

資料「六ヶ所村の今」

概況



面積	252.68Km ²	村の木	クロマツ
総人口	10,540人(平成29年9月1日現在)	村の花	ニッコウキスゲ
	(男 5,617人 女 4,923人)	村の鳥	オジロフシ
	〔高齢者(65歳以上) 2,626人		
	生産年齢人口(15~64歳) 6,656人		
	〕年少人口(0~14歳) 1,258人		
世帯数	4,813世帯		

〔行政〕

平成29年度の予算は140億1千万円であり、そのうち約80億円もの村税(村民税・固定資産税など)が納入されており、周辺の町村と比べ税収は豊かである。国庫支出金などの依存財源は30%程度あるが、地方交付税交付金を受けておらず、また、村債も発行していない。このような財政状況を反映して村内ではインフラ整備が進んでおり、六ヶ所村医療センターや屋内温水プールなどの公共施設がある。

企業所得を含む村民一人当たりの所得は1,557万円(平成26年度)となっており、原子力関連企業の存在が大きい。これは住民の所得水準とは異なるが、現実の平均所得は286万7,858円(平成28年度)となっており、県内市町村でも上位である。

〔産業〕

農業や水産業に加え、再生可能エネルギーから原子力関連までのエネルギー関連施設が集積し「六ヶ所村次世代エネルギーパーク」を形成している。これらによる税収や雇用も見込める。

産業人口構成比(平成22年度)は第一次産業(農林水産業)14%、第二次産業(工業・製造業)39.1%、第三次産業(サービス業)46.9%である。村の主要作物は長いもやゴボウなどがあり畜産業も盛んである。魚介類ではイカやサバ、ウニなども水揚げ・収穫されている。しかし、農業・漁業ともに収穫量・漁獲量(平成26年度)は年々減少傾向にある。また、製造業の事業所数(平成26年度)は13となっており従業者数は増加、または横ばいの傾向にあるが、事業所数は減少している。加えて、商業店舗(平成26年度)は102であり、従業者数とともに減少傾向である。

〔教育・社会保障〕

少子化が進んでいるが、小・中学校ではタブレットや電子黒板などのICT普及率が高く、教育環境の充実を目指している。また、村内小中学校で実施される漢字・数学・英語検定の受験費用の補助や小中学校の児童生徒の給食費が無料となっている。加えて、六ヶ所高校へ通学する生徒のスクールバス通学費の一部支援も行われている。

また、高齢化も進んでおり、家族援助が困難なひとり暮らしの高齢者などに対する住居の支援や65歳以上ひとり暮らし高齢者等の急病・災害時等必要なときに安全センターへ通報する緊急通報システムがある。また、妊婦の外来医療費の10割給付や0歳~中学校就学終期までの子どもの医療費給付などの制度もある。

参考資料 六ヶ所村ホームページ
広報 ろっかしよ
六ヶ所村勢要覧

<Reflection シートの一例>

～改良前（本事例時に使用していたもの）～

Reflection シート

1年

平成 29 年 10 月 13 日 1 校時

今日の学んだことを5分間で出来るだけ多くまとめよう！

地方自治とは… (1) 地方を自分たちで治めること。

① 国は自治 → 国が独立して
② 住民自治 → 住民の意思による

大分県 大分市、新井町、三津市 } 地方公共団体

組長制
地方議会 → 1 期 4 年、条例の制定、首長の不信任決議権
首長 → 4 年、議会解散権 (4 年任期)

市長権あり

平成 29 年 10 月 16 日 2 校時

今日の学んだことを5分間で出来るだけ多くまとめよう！

日本の政治は → 国民が主権を行使する

それを支えるために直接民主制的ないかにあつた

① イニシアティブ → 監査請求、議員、首長、役員解職 → 1/3 以上
② リコール → 議会解散、議員、首長、役員解職 → 1/5 以上
③ レファレダム → 地方条例の住民投票

平成 29 年 10 月 30 日 2 校時

今日の学んだことを5分間で出来るだけ多くまとめよう！

今の地方分権 →

地方財源 → 地方交付金、地方債
自主財源 → 地方税、国庫支出金
依存財源 → 地方交付金、国庫支出金

地方分権一括法により、自治事務・法定受託事務がある。

三割自治 → 自治体が 3 割程度は財源を確保する

三位一体の改革 → 財源強化、地方分権のため

平成 29 年 11 月 6 日 2 校時

今日の学んだことを5分間で出来るだけ多くまとめよう！

政党 → 共通の政治的イデオロギーを持つ者がそれを実現するために活動する団体

① 与党 → 政権を担当 ② 野党 → 対立している

① 二大政党制 → 政局安定、70% 以上見込 (国民生意)
② 3 党制 → 70% 以上見込 OK、政局不安定
③ 一党制 → 多党制指導、社会主義国に多い

～Reflection シートの活用法～

- ・ 学習事項を授業終了5分前にできるだけ多く記入させる。
- ・ 次時の開始5分で前時にまとめた内容をグループワーク（3～4人）で発表し合う。
- ・ 現在は上記 Reflection シートを発展させ、「本時の目標」と「目標達成度」という項目を追加して使用している。

～Reflection シートのねらい～

- ・ 授業終了時に文字化させることで学習内容をもう一度インプットさせる。
- ・ 前時の学習内容をグループワークで発表し合うことで、アウトプットさせる。
- ・ 互いにアウトプットすることが更なるインプットとなり、前時の学習事項を再構成させる。
- ・ 言語活動の充実を図るとともに、相手の話を聞き、自分の意見を話せる生徒を育成する。

Reflection シート

1年

① 違憲立法審査権 ② 裁判員裁判

平成 29年 12月 8日 2校時 本時の目標 裁判所の権限と判例から司法について理解する。

1. 目標達成自己評価（○で囲んでください） 達成度低 1 2 3 ④ 5 達成度高

2. 今日、学んだことを5分間で出来るだけ多くまとめよう！

法令審査権は憲法に違反していないかどうかを審査する権限。最終的には最高裁判所に属するこれを憲法の審判という。

① 裁判員制度、検察審査会 ② 冤罪

平成 29年 12月 11日 2校時 本時の目標 裁判員制度と検察審査会について理解する。

1. 目標達成自己評価（○で囲んでください） 達成度低 1 2 3 ④ 5 達成度高

2. 今日、学んだことを5分間で出来るだけ多くまとめよう！

裁判員制度

→ 国民が裁判官と共に第一審の刑事裁判をする

6人 裁判員

日本は参審制

検察審査会 → 検察が起訴しなかったことの適否を審査

冤罪 → 無実の罪

再審 → もう一度やり直すことができる

<優先順位 1位の課題の一例>

1 班

優先順位 1位の政策 [教育 社会保障]

優先順位を 1位とした理由

少子化が進んでいるから

[教育 社会保障] の課題

タブレットなどはあまり使っていないから、お金の無駄

2 班

優先順位 1位の政策 [産業]

優先順位を 1位とした理由

第一次産業が約10%なので若い人がどんどん参加できるようにして村を豊かにして、お金を、社会保障や教育につぎたい方がいいと思ったからです。

[産業] の課題

第一次産業の若い人が少ないので、若い人が参加できるように環境を整える。

<キャッチフレーズと課題解決のための政策の一例>

3 班

六ヶ所村のキャッチフレーズ

六恋祭の村、六ヶ所!!

課題解決のための政策

企画をたてる

- 男女の交流の場を設ける

4 班

六ヶ所村のキャッチフレーズ

若さ No.1 の村 六ヶ所!!

産業の

課題解決のための政策

- 学校などで、第一次産業への興味を持たせるための行事などを行う。
- 職場体験等で、第一次産業に関する仕事を体験。

公正・正義について、生徒間の対話を通して考察し、よりよい社会の形成や人間としての在り方生き方についての自覚を深めさせる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 公正な社会の実現を目指して			
2 単元の目標 公正な社会のあり方を、正義や共生という概念を理解し、考察する。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度 人間の尊厳、人権の尊重について関心を高め、民主社会において他者と共に生きる人間の在り方について考察している。	思考・判断・表現 民主社会において他者と共に生きる人間の在り方について幸福・正義・公正を用いて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	資料活用の技能 生命倫理、差別などに関する情報を、様々なメディアから適切に収集し、効果的に活用している。	知識・理解 幸福・正義・公正などについて理解し、その知識を身に付けている。
4 単元の概要 公正であること、正義とは何かについて、他者との対話を通して考察する。考察した内容を踏まえ、公正や正義、平等に基づいた社会を実現するためには、どのような考え方や態度が必要か、生徒自身の問題として、具体的に考えさせることで、よりよい社会の実現を目指す公民としての資質を育む。			
5 単元の指導計画（計3時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (1時間)	・ロールズやセンの思想について理解する。	・資本主義社会のもとで、富の配分における不平等の問題が生じていることを確認し、自由な社会の中で、公正や正義、平等に基づいた社会の実現を目指す必要があることを認識させる。	
第2次 (2時間)	・公正・正義について、思考実験を用いて考察する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 課題：神様委員会 5人の患者のうち、2人しか救えない。誰と誰を救うか。理由をつけて説明しなさい。 </div> <考察する上での条件> 第1回：年齢、性別、既婚か未婚かが分かる。 第2回：子供の数が分かる。 第3回：職業が分かる。 ・「ちがい」を乗り越えるための方策について考察する。 ・公正・正義について、再度考察する。 【本指導事例】	・グループワークでは、個人での考察→班内での発表→班内での合意形成→各班の発表を条件ごとに行う。対話を通して、自分と他者の双方の視点を踏まえながら、考えを深めさせる。 ・公正や正義の基準が一つではないこと、様々な考え方があることに気付かせる。 ・考え方の「ちがい」が対立や差別につながることを現代社会における対立の構図も示して認識させる。 ・思考実験を通して深めた考えを基に、他者との意見の「ちがい」を乗り越え、望ましい社会を形成するための方策について考察させる。 ・本時の学習内容を振り返り、自分の言葉で記入するよう指導する。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例の内容に関する学習指導要領上の関連部分は、「現代社会」の2の内容(2)「個人の尊重と法の支配」で示されている。

個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。

2の内容(2)現代社会と人間としての在り方生き方について、内容の取扱いには、(2)イ「(ア)項目ごとに課題を設定し、内容の(1)で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて考察させること」と示されている。本事例では、思考実験を用いて、「幸福・正義・公正」について、生徒同士の対話や、発表を通じて他者の考えを共有することにより考察を深め、「公正・正義・平等」を社会の中でどう実現していくかについて考えることで、望ましい社会の在り方やよりよい社会の実現に向けて、主体的に考察できる力を育てることにつながると考えられる。

【深い学びの実現に向けた工夫】

(1) 工夫とねらい

① 思考実験【参考資料1】

・生徒がイメージしやすいような具体的な場面設定と、段階的な条件の追加により考察を深めさせる。

→ 公正・正義に絶対的な基準があるわけではなく、条件や立場により基準が変化すること、様々な考え方や価値観があることに気付かせる。



② 対話と合意形成

・グループワークは、個人での考察→班内での発表→班内での合意形成→各班の発表を繰り返す行い、対話を通して自分と他者の双方の視点を行き来しながら考えを深めさせる。また、班内での発表順を決めておき、班の全員が必ず発言するようにした。

③ 「見える」化【参考資料2】

ア 本時の学習内容やグループワークの作業内容の提示

→ 今、何をするのかを明確にし、見通しをもって授業に参加することができる。

イ 考察過程の共有

→ 各班の考察の過程をホワイトボードに提示する。条件により、救う2名が変化していく様子を共有し、多様な考え方があることを理解する。他班の意見に触れ、自分と他者の双方の視点を踏まえながら考えを深めさせる。



ウ 現代社会における対立の構図の例示

→ 考え方の「ちがい」が対立や差別につながることを現代社会において実際に生じている対立の構図を示すことで、具体的に認識させる。「ちがい」を乗り越える方策について、生徒自身に関わる問題として考えさせる。

エ キーワードの記入

→ 「ちがい」を乗り越える方策について班で意見をまとめ、キーワードを紙に記入させる。キーワードを示し発表することで意見を共有させる。

(2) 本指導事例の振り返り

・グループワークは、班員との意見の違いに驚きの声があがり、条件を追加するごとに話し合いが活発に行われた。対話を通して、多様な価値観・考え方があることに気づき、積極的に他者を理解しようとする姿が見られた。一方で、安易に多数決を行ってしまう班もあり、全員が納得できる合意形成を目指した対話をさせる必要があると感じた。

・生徒からは、「友達との間でも意見が対立することがあるが、まず、こちらが相手の意見を受け入れれば、相手もこちらの意見を受け入れてくれるのかなと思った」や「自分と周りの意見が違った時、いつもは周りに合わせてしまうので、自分の意見をしっかり持ち自信を持って話し合いたいと思った」など、自らの体験を振り返り考察できていた生徒もおり、本時のねらいを概ね達成できたのではないかと考える。

学習指導案（簡略版）

- 1 大単元名 個人の尊重と法の支配
- 2 大単元の目標 個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義と役割、司法制度の在り方について理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。
- 3 本時の小単元名 民主社会と倫理
- 4 本時の目標 (1) 公正・正義について考察した過程を適切に表現し、他者との対話を通して自分の考えを振り返ることができる。【思考・判断・表現】
(2) 他者との意見の「ちがひ」を乗り越えて、望ましい社会を形成するための方策について考え、その内容を適切に表現することができる。【思考・判断・表現】
- 5 指導対象学年 1学年
- 6 本時の学習展開 (2時間分の授業展開)

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導入	○前時の復習 ・ロールズとセンの思想 ・公正・正義について考える	・現時点での公正・正義のイメージをプリントに記入する。			5分
展開	○本時の学習内容の確認 神様委員会：次の5人の患者のうち2人しか救えない。誰と誰を救うのか理由をつけて答えなさい ・第1回：性別・年齢・既婚か未婚かが分かる ・第2回：子どもの数が分かる ・第3回：職業が分かる ・追加条件を提示する。「好きなアイドルが含まれていたら」など ○自分と他者の意見の比較 ○「ちがひ」を乗り越えるために	・本時の学習内容及び作業内容について、教師の話を聞き確認する。 ・提示された条件から、誰と誰を救うのか考える。 ・班員にその2名を選んだ理由を説明する。 ・班で話し合い、救う2名を決める。 ・班で話し合った内容を発表する。 ・追加条件を基に考える。 ・メモを参考に自分と他者の意見のちがひについて、確認する。 ・「ちがひ」を乗り越えるための方策について考える。 ・班員に考えた内容を発表する。 ・班内でまとめる。キーワードを紙に記入する。 ・班で話し合った内容を発表する。	・本時の学習内容及び作業内容について、確認する。 ・選択の理由を班員に説明できるようにまとめる。 ・班員の意見や他の班の発表から、自分の意見との「ちがひ」に注目させ、メモをとらせる。 ・追加条件を示し、さらに考えさせる。 ・メモを参考に振り返りを行わせる。 ・立場や状況が違えば結果が違うことに気付かせる。 ・現代における具体的な対立の構図を例示する。 ・自分の基準だけで判断すると対立を生む可能性があることに気付かせる。 ・他者を受け入れること、互いに尊重しあうことが必要であることに気付かせる。 ・幸福・正義・公正の関係について図示する。	(1) 公正や正義について考察した過程を適切に表現し、他者との対話を通して自分の考えを振り返ることができる。【思・判・表】（観察） B：考察した内容を自分の言葉で表現することができる。 A：他者との対話を通して自分の考えを振り返り、考察した過程を適切に表現することができる。 (2) 他者との意見の「ちがひ」を乗り越えて、望ましい社会を形成するための方策について考え、その内容を適切に表現することができる。【思・判・表】（プリントの点検） B：自分と他者の意見の「ちがひ」に気づき、まとめることができる。 A：他者の意見を理解し、「ちがひ」を乗り越えるための方策について考え、考察の過程を適切に表現することができる。	90分
まとめ	○まとめ	・改めて、公正・正義とは何かを記入させる。 ・本時を振り返り、感想と評価表を記入する。	・授業を振り返り、自分の言葉で記入させる。		5分

7 本時の評価と手だて

生徒の観察と回収したプリントから以下について評価する。

- (1) 公正や正義について考察した過程を適切に表現し、他者との対話を通して自分の考えを振り返ることができる。【思考・判断・表現】
- (2) 他者との意見の「ちがひ」を乗り越えて、望ましい社会を形成するための方策について考え、その内容を適切に表現することができる。【思考・判断・表現】

手だて：プリントを点検し、自分の考えを適切に表現するための支援を行い、プリントの再提出を求める。

【参考資料1】

神様委員会：次の5人の患者のうち2人しか救えない。誰と誰を救うのか理由をつけて答えなさい。

患者	性別	年齢	既婚か 未婚か	子ども	職業
A	男	65	既婚	3	首相経験もある政治家
B	女	18	未婚	0	天才ピアニスト
C	男	45	既婚	2	マフィアの殺し屋
D	女	30	既婚	1	弁護士だが、詐欺の罪で服役中
E	男	28	未婚	0	ガン治療の新薬開発に貢献した研究者

第1回：性別・年齢・既婚か未婚かが分かる。

第2回：子どもの数が分かる。

第3回：職業が分かる

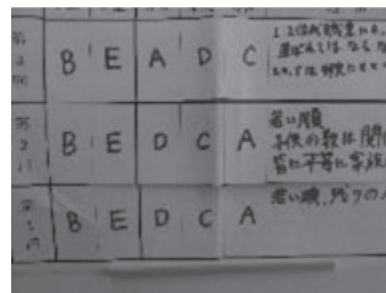
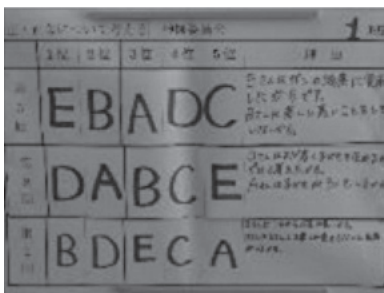
更に、好きなアイドルが含まれていたなら？親が含まれていたなら？などの条件を示し考えさせる。

【参考資料2】

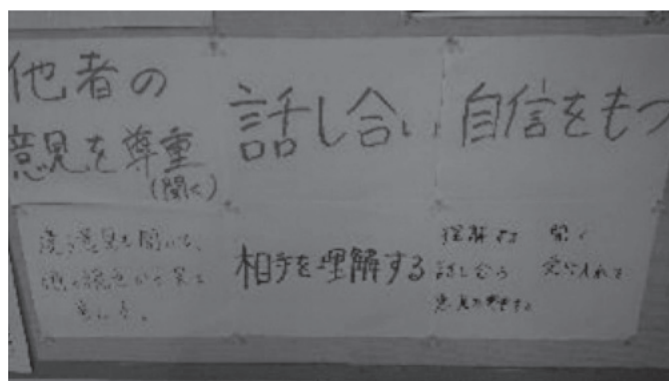
イ ホワイトボードに提示して説明する。他班の考察の過程にも触れ、自分の考えを振り返る。



条件により救う2名が変化していく例。変化しない班もあり、多様な考え方が分かる。



エ 「ちがいを乗り越えるため方策…生徒から発表されたキーワードの一例～



問1 公正・正義とは？

.....

.....

●5人の患者うち2人しか救えない。誰と誰を救うのか、理由をつけて答えなさい。

	1位	2位	3位	4位	5位	理 由
第3回						
第2回						
第1回						

〈メモ〉自分の意見と他者の意見を比較してみよう！

○同じだった点

○ちがった点

問2 他者との「ちがい」を乗り越えるためには・・・

.....

.....

.....

問3 改めて、公正・正義とは？

.....

.....

.....

★授業を通して気付いたこと、感想

.....

.....

.....

◆評価表

	評 価 規 準
A	<input type="checkbox"/> 他者との対話を通して、自分の意見を振り返ることができた。 <input type="checkbox"/> 他者の意見を理解し、ちがいを乗り越えるための方策について考えることができた。また、表現することができた。
B	<input type="checkbox"/> 自分なりに考え、意見をまとめることができた。 <input type="checkbox"/> 自分の意見を表現することができ、他者の意見を聞くことができた。
C	<input type="checkbox"/> 意見をまとめることができなかった。 <input type="checkbox"/> わかりやすく伝えることができなかった。